

Ⅰ 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
のびのび遊ぶ元気な子	見て！聞いて！触れて！好きな遊びを楽しむ～大好きな場所で大好きな人と一緒に～	子どもが身近な人や物と関わる中で、自分の好きな遊びを見つけ満足するまで遊べるような工夫をする	一人ひとりの子どもの成長や興味に合った様々な手作り玩具や環境を用意し、その中で子どもたちは、好きな玩具を見つけたり、好きな遊びをする中で自分の気持ちを出したりしながら遊びを楽しんでいた	A	89.40%		・引き続き子どもと一緒に遊ぶ中で子どもの好きを見つけ、好きを増やしていけるように、手作り玩具や環境を用意する ・公開保育等を通して学んだことを次に活かせるように、その後の環境や子どもの変化等を5分会議で発信する ・わらべうたを今後も続け一人ひとりに合った丁寧な関わりを全職員が心掛ける ・乳児なりに生き物に触れる経験や安全に楽しめる自然物の使い方や管理の仕方を園全体で話し合い、環境を整える
		優しく心地良い言葉をかけ、甘えや欲求に応え、安心して生活できるようにする	毎月の入園児が多い中、一人ひとりの子どもの気持ちに寄り添い、子どもに合った関わりをすることで信頼関係を気づくことが出来た。また、わらべうたを通して温かい雰囲気を作り、子どもたちが安心して過ごせるようにした	A	84.20%		
		園庭や園外環境を有効活用し、身体を動かしたり、自然に触れたりする体験が、十分できるようにする	室内外で同じように好きな遊びを楽しめる環境作りを職員で協力して行った。各クラスのやりたい遊びをすり合わせて園庭環境を整えたことで、異年齢児の関わりも増えた。団地公園や登呂公園で体を動かしたり、季節の自然に触れたりした	B	15.80%		
				c	0%		
				A	89.40%		
				B	5.30%		
				c	5.30%		

Ⅱ 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	学年目標に向けて保育が進められ、子どもの育ちが見られる	子どもの発達や教育課程をもとに、各学年のやりたいことや育てたい姿等の目標を明確にしてきた。それを職員間で共有し、個々に合わせた保育をしたり、室内外の環境を工夫したりした	A	79.00%	(保護者より) ・子どもらしく過ごさせてもらい、感謝の気持ちでいっぱいである	・研修で学んだことや教育課程を今まで以上に活用していき、子ども一人ひとりの発達を共有しながら保育を進める
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	・家庭と連携を取り合い、安心して過ごせるようにする ・一人ひとりの生活リズムに合わせ、安定した生活をおくれるように	早遅番時の家庭からの伝達を確実にしたり、降園時には園での姿を保護者に伝えたりして連携を取ってきた。毎月新入園児が多いため、子どもの家での遊びや生活面の聞き取りを丁寧に行い、一人ひとりに合わせた配慮をしてきた	A	84.20%		
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもが自分からもっと遊びたくなるような手作り玩具や環境の工夫をする	クラス会議でどんな環境を用意したか話し合い、子どもの姿に合わせて作った玩具や環境を職員間で共有し、さらに子どもの様子に応じて変化をつけられるようアイデアを出し合い工夫した。子どもが興味を持てるように、様々な素材の用意やイメージがしやすい本物のような玩具を考えて作った	A	89.40%		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	・安全点検を実施し、安心安全な環境を作る ・様々な災害を想定した訓練に取り組む	避難訓練の様子を保護者にもボードで知らせたり、安全な保育環境や子どもの避難がしやすい環境作りも整えたりした。日々の業務の中で出たヒヤリハットを全体で共有し、全員が意識して事故防止や改善・対策ができるようにした	A	63.20%	・毎日、園がきれいだなと感じている。外の花の水やりや教室の掃除をしている姿を見かける	・ヒヤリハットの提出を定期的に行い、事故防止に努める ・全職員が避難時の動きを把握し、自ら判断して動けるようになる
				B	36.80%		
				c	0%		
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	食事・排泄・着脱・清潔・睡眠等基本的生活習慣が身につくよう、家庭と連携をとりながら、個に合った援助をする	個々の生活リズムや発達を考慮して保護者と話をしたり、おたよりを通して園での様子を伝えたりすることで、家庭と子どもの様子を共有してきた。また、家庭でも生活習慣が身につくように、連携して取り組んでもらえるよう話をしてきた	A	84.20%	・参加会で子どもがトイレで排尿する姿を見られたので、家でトイレに座る習慣をつけようと思った	・援助が多くなりすぎないよう一人ひとりの子どもの発達や成長を把握する ・保護者に子どもの発達を伝えていき、協力して援助をする
				B	15.80%		
				C	0%		
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	1人1人が生き生きと遊び、生活できるよう、発達や特性に合わせた支援をする	発達が気になる姿・ゆっくりな姿をケース会議で話し合っで子ども理解を深め、一人ひとりの発達や特性に合った援助ができるようにした。また、職員間で意見を出し合っでサポートプランを作成し、関わり方や支援の方法を共有した	A	73.70%	・自分の思いをしっかりと出して、時にはケンカになることも成長に必要だと、ケガのないよう見守っていただきありがたい	・子どもが困っている場面の具体事例を挙げ、職員で定期的に話し合っで個に合った支援をしていけるようにする
				B	26.30%		
				c	0%		
5 組織運営	(1)組織体制の充実	全職員が自己の役割（分掌）に責任を持ち協力して運営を進める	自身の分掌に責任をもって取り組み、リーダーが中心となり、声を掛け合っで協力して行ってきた。分掌ごとにおたよりを配信する等して、園内で共有したり、保護者にも発信したりした	A	57.90%	・玩具や壁面は先生達が子ども達の成長等を考えて手作りをしてくれていることがよく分かり、子ども達にいい刺激になっていると思う	・自身の分掌以外にも協力体制が取れるよう、声を掛け合ったり、進捗状況を確認し合ったりする ・計画的に進められるように細かい部分を考慮して企画をする
				B	36.80%		
				c	5.30%		
6 研修	(1)研修体制の充実	研修テーマ「子どもの大好き！を育もう」を理解し、日々の実践や話し合いを通して学び合う	研修テーマを元に、5分会議や公開保育では、子ども理解を深め、他クラスの職員に意見をもらい学び合ってきた。それらを日々の保育に活かし、実践・検証・改善を継続して行ってきた。また、出た意見等をまとめ、全職員が見やすい所に掲示した	A	73.70%	・子どもは毎日その日遊んだことや楽しかったことを報告してくれ、とても楽しく通っています ・色々な遊びや経験をさせてもらって、とてもいい刺激になっている	・5分会議を引き続き行い、子どもの遊びについて話す中で発達を丁寧に捉え、教育課程を活用して学びを深める。会議後の、保育者の思いや子どもの様子等が伝わるようその後の姿もまとめて共有する
				B	26.30%		
				c	0%		
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	安心できる保育者との関わりの中、好きな遊びを十分楽しめるような環境を作る	温かい声かけやわらべうた等を通して保育者との関係作りができ、子ども達も保育者の傍で同じように好きな遊びを見つけて楽しんでいた。室内外で同じような環境を整えることで、遊びが繋がり、夢中になって遊ぶ姿が見られた	A	84.20%	・家庭では体験させられない経験させてもらえて感謝している。「保育園楽しい？」と聞くと「楽しい」と言う答えが園での生活を物語っていると思う	・暑さ寒さにより園庭で過ごすことが難しいときに、室内でも安心して体を動かせる環境を協力して作る。他園の公開保育で環境について学び、自園に活かす
				B	15.80%		
				c	0%		
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保育者と保護者が、子どもの良い所や成長の喜びを共有できる関係作りに努める	参加会や美術展を通して、実際に園での様子や子どもの成長を見てもらう機会や、おたよりやスライドショーでは、写真を使って子どもの姿を共有した。必要に応じて面談を設け、子どもの姿を丁寧に伝え合う機会も作ってきた	A	94.70%	・子どもと離れて過ごすことに不安を感じていたが、園での様子をいつも詳しくたくさん教えてくれて安心できた	・引き続き参加会等で保護者に園での様子を見てもらい、子どもの姿を共有する ・タブレットを活用して写真を使った配信もする
				B	5.30%		
				C	0%		
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	隣接する支援センターや児童発達支援センターと連携と交流を図り、保護者にも発信していく	毎週、支援センターに自園が大切にしているわらべうたをお便りも使って伝えに行き、地域の方との交流を深めてきた。また、近隣の施設には勤務感謝の訪問に行き、関わりを設けてきた	A	63.20%	・支援センターでのわらべうたであそぼう会では、地域の親子も楽しく参加してくれ、喜んでもらえている	・児童発達支援センターももや登呂こども園等の近隣園との交流の機会を作る ・保護者にも活動内容をボード等を使って伝える
				B	36.80%		
				c	0%		
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域との関わりを大切にし、災害時には連携をとれるような体制を作る	散歩時や園周辺で地域の方には時には積極的に挨拶をしてきた。また、災害時には児童発達支援センターももや団地への避難ができるよう話を進めてきた	A	31.60%	・日頃から児童発達支援センターももや団地の方からも関わりを持ってきている	・団地の方と合同避難訓練を実施する ・保育者が手本となり、地域の方と挨拶や受け答えを丁寧にする
				B	68.40%		
				c	0%		